分かりやすく、使いやすい公共交通 ネットワーク実現会議(丹後地域) (第2回会議)

日時:平成18年3月22日(水) 場所:みやづ歴史の館大会議室

これまでの経過

平成17年11月30日 「分かりやすく、使いやすい公共交通

ネットワーク実現会議(丹後地域)」設置、 第1回会議開催

平成18年1月30日

第1回ワーキンググループ会議、現地調査実施

~31日

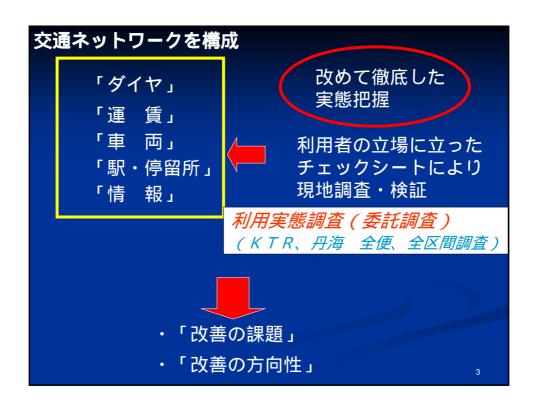
2月 7日 ワーキングサブメンバー打合せ

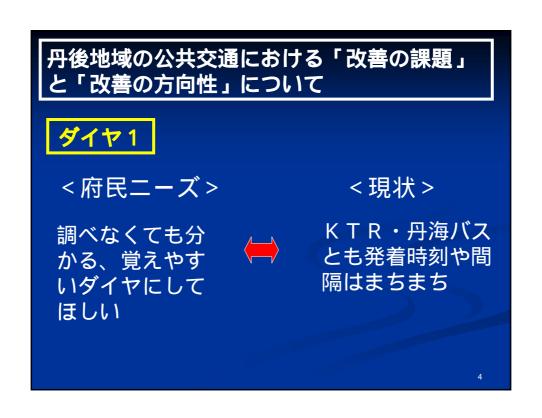
16日 ワーキンググループ打合せ

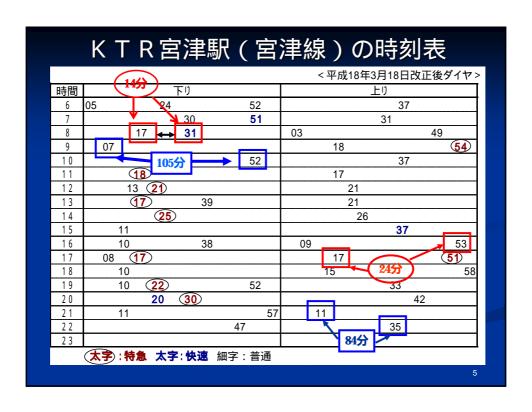
3月3~5日 利用実態調査(KTR、丹海 全便、全区間調査

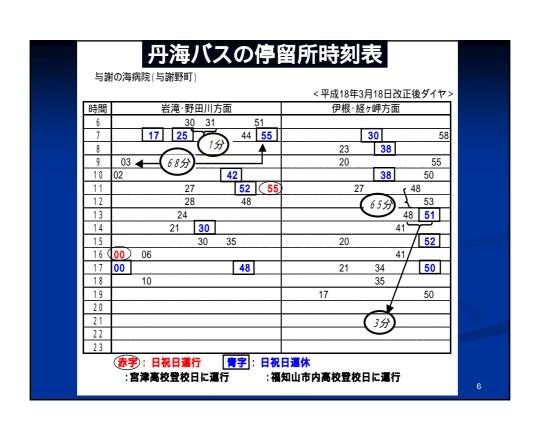
< 随 時 サブメンバー等打合せ >

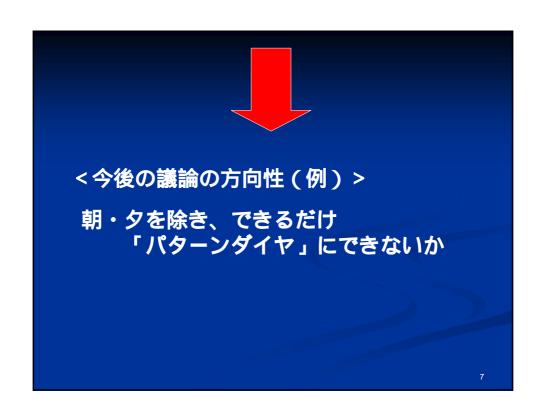
3月22日 第2回実現会護開催

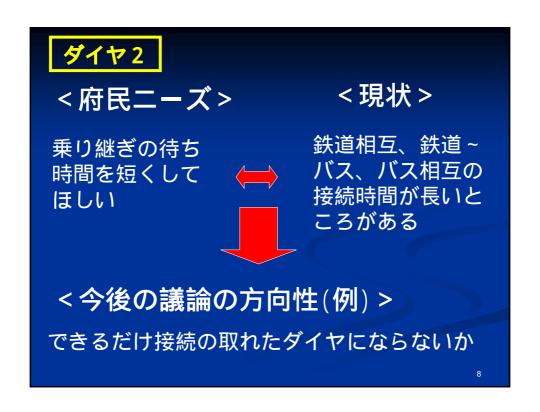












ダイヤ3

<府民二一ズ>

<現状>

平日

「通院」や「買物」に便利な ダイヤにしてほしい



更に検証

土・日・休日

「観光」や「遊び」に便利 なダイヤにしてほしい



(KTR) 平日と土休日は同じ ダイヤ (特急合計22本)

[他3セク12/39社 土休日ダイヤ実施]

9

ダイヤ3



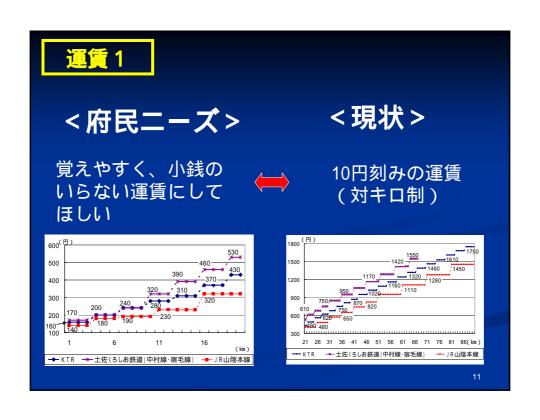
<今後の議論の方向性(例)>

土・日・休日に「臨時特急」や「貸切団体臨時列車」を 増やせないか

景勝地で一時停止・案内

地域やJR、旅行業界等と一緒になって、丹後ならではの観光資源を気軽に無駄なく回れるコースを作れないか (重要伝統的建造物群、文殊堂、いろいろな日本の百選など)

「乗降調査結果」を見て 乗客を確保できる新たな仕組み



運賃1 乗合バス·市町確保バスの運賃比較									
	普通運賃								
	定任	初乗り (最低) 運賃	運賃の刻み	府補助路線での算定例					
	運賃 形態			3 k m	5 k m	10 k m	15 k m	20 k m	
丹後海陸 交通㈱ (伊根線)	対キロ 区間制	150 円	10円 刻み	200	290	480	650	8 0 0	
あやバス (綾部市)	ゾーン (地帯) 制	100	100円 刻み	100、200、300、400、500					



<今後の議論の方向性(例)>

ワンコイン、ツーコイン・・(100円刻み) の運賃・料金にできないか

<府民ニーズ>

<現状>

長く、多く乗れば割 安になる仕組みがほ しい



- (KTR)
- ・ぐるりんパス
- (2日間)
- ・まるごと丹後乗り 放題切符

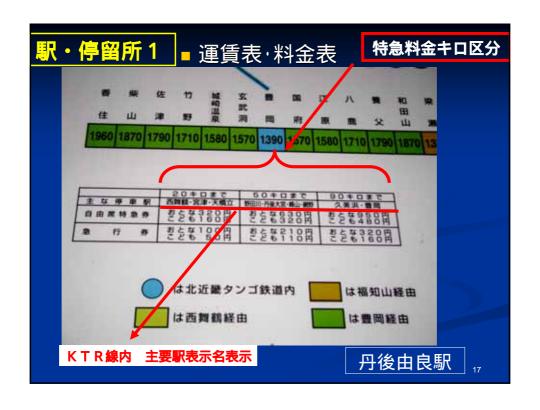
(1日間)

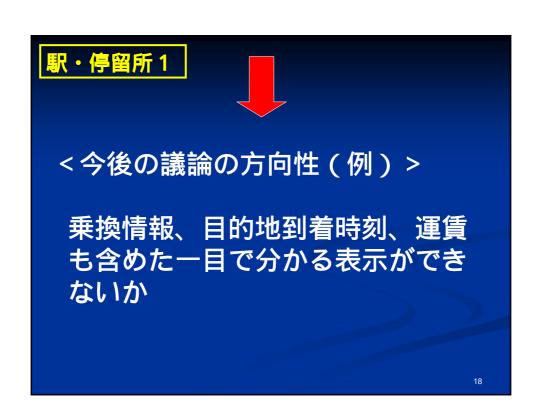
<今後の議論の方向性(例)>

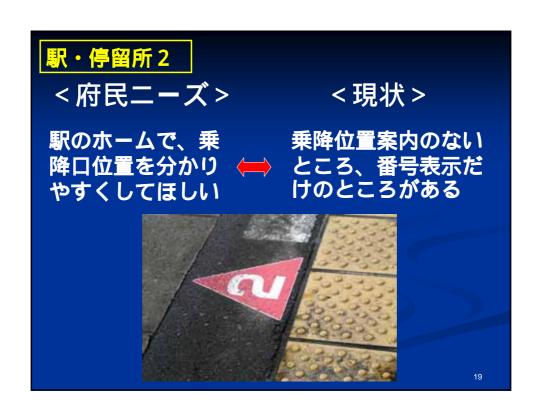
鉄道・バスを通じた1日フリー切符等ができないか

駅・停留所1 <府民のニーズ> <現状> 目的地までの 運賃・料金が 一目で分かる ように表示し てほしい











駅・停留所3

<府民ニーズ>

- ・「雨に濡れず」
- ・「長く歩かないで」ているもの

乗換できるように してほしい

<現状>

- ・改札から遠いホー ムに列車が到着し ているもの
- ・駅前広場にバスが 乗り入れていない もの
 - ・乗り入れていても、バス停が遠いもの

21

駅・停留所3 円後由良駅 一路線橋 一路線橋 一番銀行方向





駅・停留所3



できるだけ、改札に近い ホームに到着できないか 駅舎近くまでバスの乗 り入れができないか





駅・停留所4

- <府民ニーズ>
- ・駅舎の中で、バ スが待てるよう にしてほしい
- ・駅舎の中で、バ スの情報(ダイ ヤ・運賃等)が 分かるようにし てほしい

<現状>

バス時刻表はあり





- (細かい)
- ・運賃は分からない
- ・目的地の位置が分からない



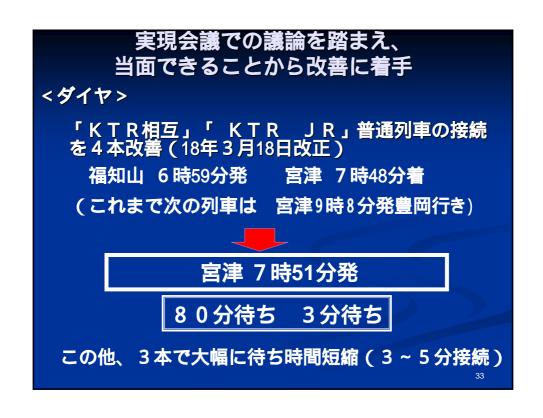


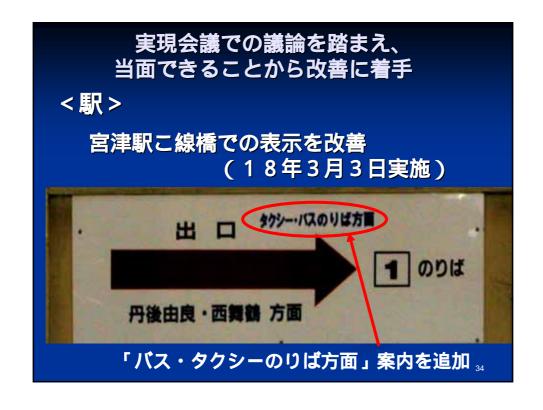




駅・停留所5 <府民ニーズ> 〈現状〉 バスに乗るとき、できるだけ歩かずに、自宅の近くからバスに乗りたい <今後の議論の方向性(例)> ・フリー乗降区間を拡大できないか ・バス停の間隔を短くできないか ・集落の中まで運行できないか







実現会議での議論を踏まえ、 当面できることから改善に着手

- <駅>
- ・京丹後市内の全駅(7駅)に時刻表を リニューアルし、掲示

(18年3月18日実施)

・市民に各戸配布(18年3月10日実施)



35



「府中北部地域公共交通ネットワークの今後のあり方」 (中間まとめ)平成16年9月13日 [抜粋]

1.現状と課題

(バスをはじめとする公共交通の役割)

・地域住民の欠かすことのできない生活の足、地域 への来訪者の交通手段、商店街の振興等、地域の 社会経済活動も支える重要な社会生活基盤。

(現状)

バス等の公共交通は、企業の営利事業であると同時に、公共交通としての公的役割も担ってきた結果、「企業の利益追求」も「住民の利便性の向上」も、どちらもが中途半端な状況。

37

2.地域の公共交通ネットワークの今後のあり方

従来の発想を転換し「住民(利用者)最適のネットワーク」を、地域が支える姿勢で、行政、住民、事業者が、例えば路線の計画や利用促進を含め協働するなど、地域の実情に応じたより良い地域交通の実現に取り組む。

今後のスケジュール							
	実 現 会 議	同ワーキンググループ					
18年 3月22日	第2回実現会議 (改善課題と改善の方向性の協議)	改善実行計画骨子案の作成					
引き続き、改善可能なものはできるものから随時実行							
4月下旬	第3回実現会議(メンバー拡大:利用者(住民)、その他交通・観光事業者、アドバイザー(国、学識経験者、JR西日本、旅行エージェント)) (改善実行計画骨子案の協議)	拡大ワーキンググループに よる検討・協議 (必要に応じて追加の実態調査)					
9月頃	第4回実現会議 (改善実行計画案の策定) 「改善実行計画」の実行、実証実験 等						

